daily コラム

2026年10月9日(金)

〒308-0842　茨城県筑西市一本松624-3
税理士法人和敬会筑西事務所　TEL 0296-22-3689　FAX 0296-25-0627
Email tfc@wakei-kai.com

「儲かっているのに潰れる」恐怖。決算書が黒字でも安心できない理由

「利益」と「現金」は計上の時期が違うのです

「今期は売上も順調だし、利益も出ているから一安心」そう思っていませんか？　実は、倒産する企業の約半数（2024年で51.1%）は、帳簿上は利益が出ている「黒字倒産」です。「儲かっているはずなのに、なぜ手元にお金がないの？」という事態は、どんな会社にも起こり得ます。

決算書だけでは見抜けない「資金繰り」について考えてみましょう。

なぜ黒字なのに倒産してしまうのでしょうか。理由は単純で、「売上が上がった日」と「現金が口座に入る日」にはタイムラグがあるからです。例えば、100万円の案件を受注して納品すれば、その月の売上(利益)としてカウントされます。しかし、その入金が「2か月後」で、外注費や給与の支払いが「今月末」だったとしたらどうでしょうか。入金される前に手元の現金が底をついてしまえば、いくら黒字であっても会社は倒産してしまうのです。

業績が良い時ほど「黒字倒産」の罠に陥る

特に注意が必要なのは、「急激に売上が伸びている時」です。注文が殺到し、仕入れや外注費の支払いが先行して、売上(売掛金)は増えるが、実際の入金は数か月先になり、支払いのピークに入金が追いつかず、資金がショートします。「売上が増える＝先に支払わなければならないお金が増える」という事実を忘れてしまうと、業績絶好調の波に呑まれて倒産するという最悪のシナリオを招いてしまいます。

「勘定合って銭足らず」を防ぐには

このリスクを避けるために、経営者が今すぐ実践できる対策は2つです。

・「キャッシュフロー（現金)」を毎月追う

損益計算書（P/L）の「利益」は、ルールに基づいた計算上の数字に過ぎません。通帳の残高と「資金繰り表」を毎月（できれば毎週）確認し、足りなくなる前に手を打つ(＝融資の準備を先手で打つ）ことです。

・回収を早くし支払いを遅くする交渉

「月末締め・翌月末回収」を「15日締め・当月末回収」や「都度現金払い」にできないか交渉します。買掛金の支払サイクルを長くできないかについては、「月末締め・翌月末払い」を「翌々月払い」に延ばせないか仕入先と交渉します。

会社を存続させるのは、「利益」ではなく、「現金」だからです。



社長の頭の中に入っていると思っている資金繰りを、一度紙に落として表にして細かくチェックしてください。会計事務所に教えてもらいながら作れば難しくはありません。